

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

熊本県 大津菊陽水道企業団

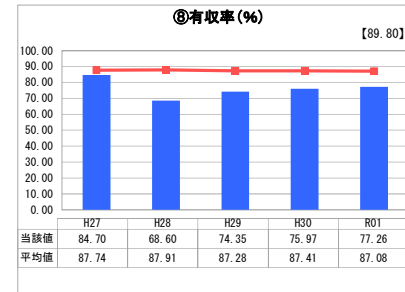
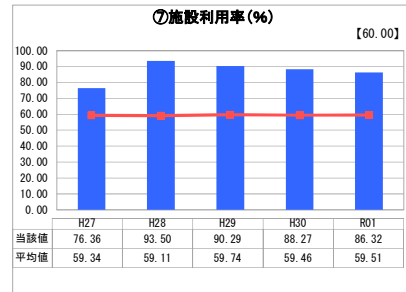
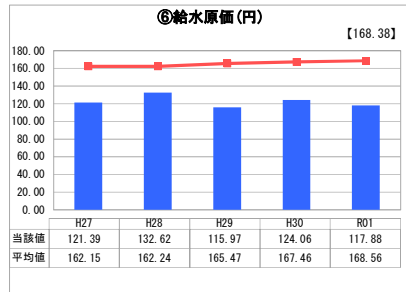
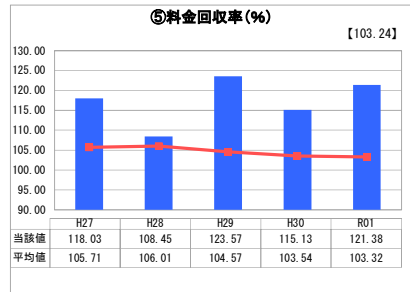
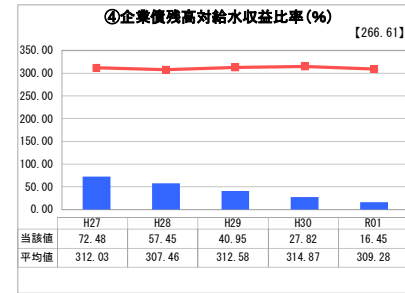
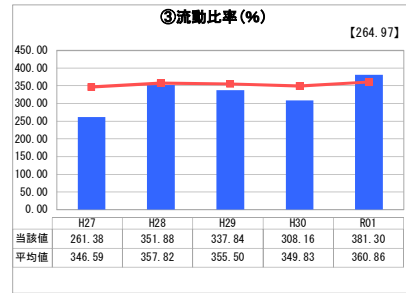
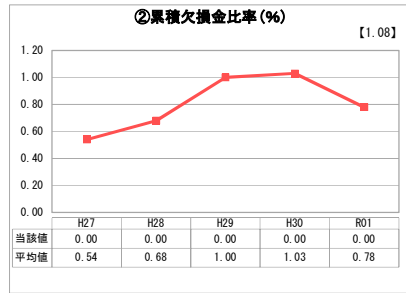
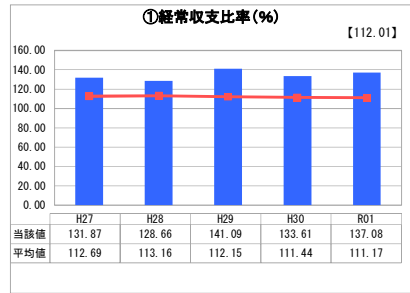
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	94.90	99.45	2,670	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
77,103	56.47	1,365.38

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

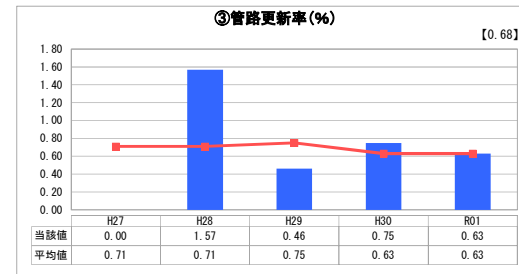
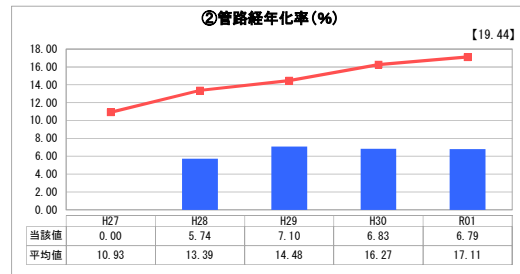
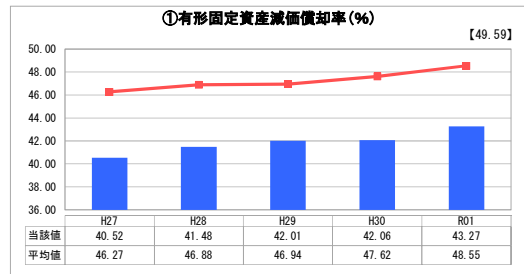
### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 継続的に経常収支比率は、100%を超え類似団体と比較しても高い水準にあり良好です。
- ② 累積欠損金は、発生しておりません。
- ③ 流動比率は、類似団体と比較すると僅かに上回っており良好な数値を示しており、短期的な支払能力は十分備わっていると見えます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、企業債の償還が進んできていることから類似団体と比較しても大幅に低い数値となっています。今後、既設老朽施設の更新費用を充てる企業債借入を予定しており、当該指標についても注視していくところです。
- ⑤ 料金回収率は、100%を超えており、給水に係る費用が給水収益で賄われていることが示されています。
- ⑥ 給水原価は、類似団体と比較しても低い水準で推移しておりますが、有収率の向上によってさらに良好な数値を目指すことが求められます。
- ⑦ 施設利用率は、類似団体と比較しても高い数値となっており、有効に施設利用ができています。今後、既設老朽施設の更新によりさらに有効利用できるものと思われます。
- ⑧ 有収率は、類似団体と比較して低い水準を示しており、漏水対策と老朽管更新を計画的に進めていくことが課題となります。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、昨年度と比較すると上昇し老朽化が進んでいることが見て取れます。今後、既設老朽施設の更新事業により有形固定資産減価償却率は、低くなる予想されますが、更新の財源確保を考える必要があります。
- ② 管路経年率は管路更新を行ったことにより前年度比でやや下降しており、全国・類似団体と比較しても低い水準です。
- ③ 管路更新率は当該年度においては、全国・類似団体比でほぼ同程度の水準でした。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

経営の健全性・効率性を分析すると、概ね健全な経営ができてきているものと思われます。

また、老朽化の状況から、当該年度においては施設や管路の更新によって資産の老朽化が進行していないことが見てとれます。

今後は、施設の老朽化が加速していくと見込まれており、そのことによる更新費用の増大、延いては経営状況の悪化へつながることが懸念されます。

安定した経営を継続していくためにも基本計画に基づき企業債を活用しながら計画的な施設・管路の更新に取り組んでいきます。